



みず かながわ 水の子 かながわ「子ども親水啓発事業」

いのちの水 生きている川

～みんなの手で、かながわの水を守り、育て、つなげよう～

このリーフレットでは、県内各地の小・中学校における川や池、水を題材にした学習の実践例を紹介しています。川や池には多くの生き物が生活し、それらは私たちの生活を豊かにするとともに、潤いを与えてくれています。学校や地域での自然の観察や生き物の飼育などを通して、生き物の誕生や成長、生命の大切さについて学んでいきましょう。

また、自然の仕組みの素晴らしさを知るとともに、私たちのいのちの源である、水について調べたり、限りある水資源を大切に守っていくことについて考えたりしていきましょう。

やがみがわ 矢上川ワールド

本校の学区を広く流れる矢上川ですが、多くの子どもたちにとって、「身近な川」とは言えない状況でした。そこで、子どもたちが実際に矢上川に入って、川の調査を行いました。子どもたちは、思ったよりも水がきれいなこと、魚や鳥など多くの生き物が生活していることなど、たくさんのことに気が付きました。つかまえた生き物について、地域で活動されている「矢上川で遊ぶ会」の方々に教えていただきました。

たくさんの生き物にふれ、地域の方々に教えていただいたことで、矢上川を「さらにきれいにしたい」「ゴミをなくしたい」という意識が子どもたちの中で高まりました。

矢上川へのかかわりを深める活動を通して、自分たちが普段の生活の中でできることについて考え、行動する実践につなげていきます。



調査のようす



地域の方々からの学び

かわさきしりつ きづきしょうがっこう
(川崎市立木月小学校)

水はどこから (社会科見学)

社会科見学の一環として、宮ヶ瀬ダムと伊勢原浄水場の見学をしました。宮ヶ瀬ダムでは、レクチャールームでダムの歴史や役割を学んだり、ダムの放水を見たりしました。また、伊勢原浄水場では、川の水を、きれいで安全な水にする浄水場の仕組みを、目で見て感じることができました。

この学習をきっかけに、子どもたちの中で水を大切にしようとする気持ちが高まり、大事な資源をみんなで守っていくことへの意識づけになりました。



宮ヶ瀬ダムでの学習



伊勢原浄水場の見学

あつぎしりつ もりの さとしょうがっこう
(厚木市立森の里小学校)

きさわしぜんたんけんたい 吉沢自然探検隊

学区内には、平塚八景に指定されている霧降の滝があります。4年生は、総合的な学習の時間の中で「地域の自然や環境について探求する」ことをめあてに、霧降の滝へ何度も探検に行きました。滝の水はとても冷たく透きとおっており、子どもたちは、「どれくらいきれいな水なのかな」という疑問をもちました。そこで、日本環境協会より講師の方をお招きして、本格的な水質調査や水質の浄化実験をしました。その結果、霧降の滝の水は雨水と変わらないきれいさであると分かり、子どもたちは大きな喜びを感じていました。

学習発表会では、ポスター形式による発表や宝探しクイズ、泥水の浄化実験などの方法で、ろ過装置や水生生物を他学年の子どもたちや保護者、地域の人たちに向けて発信しました。

また、地域の下水処理施設の見学を通して自分たちが使った水がどのように処理されているのかを実際に見ることができ、実感をもった学習になったようです。子どもたちは「水に興味があった。」「水をもっともっと大切にしようと思った。」と意識を高めていました。この経験を生かし、身近な環境を守るために一日一日の中で何ができるかを共に考え、実践していきたいです。

ひらつかしりつきさわしょうがっこう
(平塚市立吉沢小学校)



霧降の滝への探検

ひきじがわ さくせん 引地川クリーン作戦

学校の目の前を流れる引地川は、以前はとても汚かったのですが、地域の方々の尽力で、今ではとてもきれいな川になりました。そこにはたくさんの生物が生息しており、オイカワなどの魚のほか、カメやカモ、サギ、カワセミなどを見ることができます。

5年生は、地域の方に御協力を頂いて、「引地川クリーン作戦」を行いました。初めに、引地川の歴史、川にあるゴミの種類、生物の観察の仕方などについて教えて頂きました。その後、実際に川に入ってゴミを拾う「クリーン作戦」を行いました。ペットボトルやビニール袋など、たくさんのゴミが捨てられている現実を目の当たりにしたり、川にいる小さな魚を採取し観察したりして、川にはたくさんの生物が生息していることを実感することができました。

この活動を通して「自分たちの地域を自分たちの手で守っていきたい」という気持ちがふくらみ、今、自分たちにできることを考える貴重な体験になりました。

やまとしりつしもふくだしょうがっこう
(大和市立下福田小学校)



生物の調査



引地川クリーン作戦

「小さな友だち 水ぞくかん」

2年生は、生活科の「小さな友だち」の単元で「上大井小 水ぞくかん」をつくる計画をしました。地域には酒匂川が流れ、水田も多く、水辺の生きものを目にする機会が多くあります。子どもたちは、水田や学校の清掃前のプールにたまった水から生きものをつかまえ、校内で飼育しようと考えました。プールで見つけたヤゴやオタマジャクシ、水田で見つけたザリガニやエビなどの飼育を始めました。

ヤゴがトンボに成長するとき、水の中に落ちてしまったり、うまく羽化できずに死んでしまったりする場面に出あい、それぞれの生きものに適した環境をつくる必要だと感じました。小石や藻などを入れたり、棒を立てたり、えさを工夫して与えたりするなど次々に工夫を重ねました。さらに長く生きてほしいという願いは強まり、学校の図書室や大井町の図書館を訪ねて調べたり、家族や地域の人に聞いたりして、よりよい方法を探っていました。

トンボが羽化する瞬間の感動など、たくさんの貴重な体験を重ね、生きものと友だちのように接する子どもたちの姿が見られました。しかし同時に命を守り続けることの難しさも感じました。その結果、羽化したトンボはすぐに逃がしたり、つかまえた生きものたちをもとのところへ戻したりすることを考えました。

(大井町立上大井小学校)



トンボの成虫



ヤゴの羽化



羽化した後のぬけがら

ふじがいけ 藤志ヶ池 (ふじがいけ) を復活させよう

本校には、10年近く放置されていた池があります。この池をビオトープとして復活させる取組をしています。最初に生徒会本部と科学部の生徒が中心となって池の清掃を行い、ショウブを育てることから始めました。

今年度は、スイレンの栽培や藤沢メダカの飼育を行っています。池には、水辺を求めて小鳥やトンボが飛来するようになり、ビオトープとして機能を始めています。また、藤沢メダカの放流会を行ったことで、生徒会本部や科学部以外の生徒にも池を知ってもらえることができ、池は生徒の憩いの場になりつつあります。

美化委員会や新聞委員会など、生徒会のいろいろな組織に池の保存に携わってもらえることで、持続可能な環境づくりを進めていきたいです。そして、より多くの生徒に池への興味をもってもらえることを通して、藤志ヶ池や藤沢メダカの由来等も知ってほしいです。

(藤沢市立藤ヶ岡中学校)



池の清掃のようす



ビオトープとして復活した池

河川の水質調査と環境保全

湯河原中学校科学部では、毎月、町内を流れる新崎川の水質調査をしています。また、実験結果を分析する科学の楽しさも学んでいます。

水質調査の結果は、月によって少しの変動は見られますが、1年間を通して見ると、比較的安定していることがわかりました。pH（水素イオン濃度）やDO（酸素要求量）から、湯河原町を流れる川には、きれいな水が流れていることがわかりました。

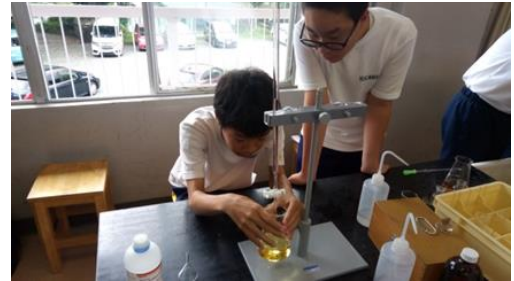
また、環境保全の活動として川のゴミ拾いにも取り組んでいます。川には、海水浴などの観光客らが落としたゴミや空き缶などが散乱しており、1時間ほどゴミを拾うと、見違えるようにきれいになりました。

これからも、環境を保全する意識をもって行動していきたいです。

湯河原町立湯河原中学校

新崎川						
月	日	天候	気温	水温	pH	DO
4	未調査					
5	24	曇り	23	20	7.6	8.9
6	1	晴れ	24.5	21	7.3	12.4
7	21	晴れ	27	20.1	7.4	7.3
8	28	晴れ	28	24	7.4	7.7
9	未調査					
10	30	晴れ	16.8	14.1	7.2	10.2
11	6	晴れ	19	14	7.5	8.8

【表】 水質調査の結果



水質調査のようす

水はどこから ～小雀浄水場の見学～

社会見学で、横浜市にある小雀浄水場に見学に行きました。見学では、飲み水ができるまでの浄水場のはたらきについて学びました。子どもたちは、水をきれいにする仕組みを実際に目にしながら理解しました。

見学後の授業では、見学で学んだことをもとに、水源からの水が浄水場に届くまでのことや、浄水場から家庭に水が届くまでのこと、さらには、家庭で使われた水が下水処理場できれいに処理されて、自然に返っていくまでの流れについて学習を深めました。そして、学習の成果を一人ひとりの児童が新聞にまとめました。

一連の学習を通して、子どもたちは、自然を大切にすることや、水を大切にすること等についての意識を高めました。

藤沢市立鶴洋小学校



学習成果をまとめた新聞